

平成28年度 自 己 評 価 表

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	社会人として通用する人間を育てる	今年度の 重点目標	①生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」「大きな声で校歌を歌う」 ②「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成 ③地域との連携を推進する
-------------------	------------------	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」「大きな声で校歌を歌う」	(時を守る) ・規則正しい生活習慣が身に付き、毎日を健康に送ることができている。 ・遅刻、欠席がなく、授業の始まる前には準備が整い、意欲を持って学習に臨んでいる。	・8割以上の生徒は朝食を摂取して学校に登校している。一方、保健室の利用件数は前年度より増加傾向であった。 ・欠席、登校遅刻は減少傾向(絶対数)である。また、授業準備状況はほぼできているが、授業遅刻を繰返す生徒も存在している。	・健康や安全に対する意識が高く、食事や睡眠を大切にしたい規則正しい生活習慣のもとに学校生活を送ることができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10%向上) ・学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた学習習慣が定着している。(欠席・遅刻者数が昨年度より10%減少)	・保健だより等をととして生徒・保護者に規則正しい生活と健康の大切さを啓発する。 ・生徒面談において、必要な生徒に対して生活指導を行う。 ・家庭への連絡を一層充実し、保護者と連携して生活習慣の改善を図る。 ・「入室許可願い」の取組をもとに意識啓発を行い、授業遅刻の減少を図る。 ・「学習力」指数により事後指導を行う。	・平日の朝食摂取率が90%以上、10日以上欠席者が数人で推移し、生活習慣の乱れによる保健室利用も減少傾向にあり、規則正しい生活習慣を維持できている。 ・欠席・遅刻者数は昨年度より10%以上減少し、授業遅刻の指導数も大幅に減少している。 ・学習力調査の「授業の受け方」の指数が目標指標を維持している。	A	・「保健便り」等によって健康管理に関する啓発活動を引き続き実施する。 ・今年度の学校目標が達成されるよう生徒面談などをととして、良好な基本的な生活習慣が継続するように生徒の意識を高める。
	(場を清める) ・毎日の清掃活動を大切にし、気配りのある行動がとれている。 ・学校内が清潔に保たれ、整理・整頓が行き届いている。	・朝の清掃活動には、職員の指導の下で概ね取り組んでいる。 ・机の周りや個人ロッカー内の整理・整頓が不十分である。 ・生徒会によるあいさつ運動等によって自発的に挨拶できる生徒が増加している。	・美化意識が高く清掃活動が丁寧に行われるとともに、環境資源に配慮したゴミ処理ができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が60%) ・身の周りの整理・整頓ができいて、学習環境を整える習慣が定着している。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10%向上)	・朝の清掃活動をととして美化意識を高める。 ・環境教育LHR等でゴミ処理について啓発を行う。 ・委員会活動で環境整備の意識の高揚を図る。 ・定期的に教室等の整理・整頓指導を実施する。(ロッカー点検の実施)	・清掃活動は職員の指導の下、概ね取り組めているが、ゴミの減量や分別ができいない生徒もみられる。 ・私物を机の上や床に放置したまま帰宅している状況が一部にみられる。また、個人ロッカー周辺の私物の整理が十分にできていない。	C	・委員会活動を通じて、ゴミ減量や環境整備について意識の高揚を図る。 ・定期的に教室内の点検を実施し、不十分な場合は、整理・整頓指導を行う。 ・2学期末にロッカー点検を実施し、整理・整頓の意識付けを図る。
	(礼を正す) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いと制服の正しい着こなしが保たれている。	・言葉遣いや制服の着こなしは向上しつつあるが、不十分な面もある。	・明るい笑顔で自発的な挨拶ができ、社会性を身に付けて「場・時・人」に応じた正しい言葉遣いができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10%向上) ・頭髮服装規程を順守する意識を高め、正しく制服を着こなすことができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10%向上)	・マナーアップ運動や生徒会のあいさつ運動により継続的な啓発活動を実施する。 ・教員の共通理解のもと、カード指導を含め毅然とした姿勢で指導するとともに、丁寧に粘り強い指導を継続する。	・生徒会執行部によるあいさつ運動の成果がみられ、校内外で自発的にあいさつをする生徒が増加している。 ・暑い日に着こなしが崩れる生徒が見受けられるが、特に大きな服装の乱れはない。「丁寧な言葉遣い」に関しては、時・場所に応じた言葉遣いが不十分な生徒がいる。	C	・教員間で更に共通理解を深め日常の指導(着こなし・言葉遣い)を行う。
	(大きな声で校歌を歌う) ・式典や学校行事で校歌を大きな声で歌うことができ、澁刺とした雰囲気全体に満ちている。	・式典等では整列状況に課題があるものの整然とした集会集合ができている。 ・「校歌を大きな声で歌う」については、一部の生徒で声のでているもののまだまだ不十分である。	・各集会において整然とした整列集合ができ、式典等で澁刺として校歌を歌うことができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10%向上)	・集会時における年次ごとの整列集合指導を一層徹底し、整然とした集合の定着を図る。 ・学校行事や特別活動の機会をととして、学校に対する帰属意識や誇りをもたせるように働きかける。	・校歌を声を出して歌っている生徒は増えつつあるが、「大きな声で歌う」という点ではまだ不十分である。 ・集会における整列集合は速やかにできている。	C	・校歌の歌詞を覚えていない生徒が存在しているので、歌詞カード等を利用して定着を図る。
2. 「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成	(基礎学力の定着) ・丁寧な学び直しが行われている。 ・学びに対する満足度が高く、真摯な態度で学習に臨んでいる。	・基礎学力診断テストの成績下位層が少しずつ減少している。 ・目標設定に迷い、学力不振や学習意欲を減退させている生徒も存在する。 ・学校評価アンケートで将来や職業、進路について考えている割合が80%を超えている。 ・目標を持っていても、その実現に向けた方策や行動ができない生徒が存在する。	・基礎力診断テストのDゾーンの人数が前年度に対して10%減っている。 ・学習に対する生徒の満足度が高く、真摯な態度で学習に取り組んでいる。(学習力指数が2.5以上及び、授業評価アンケートの結果全項目が3.0以上) ・将来の社会生活を見据えた進路目標を見定め、意欲的に努力を積み重ねている。(基礎力診断テストの進路学習取り組み度の向上)	・学力向上プロジェクトを中心に丁寧に学び直しを行うとともに、学ぶ意欲を向上させる授業改革を進める。 ・生徒面談をととして生徒理解を図り、個々の生徒に応じたアドバイスを行う。	・ICT職員研修会を実施し、今年度導入したタブレットの活用について研修するとともに、他校の研究授業の参観などによって、授業改革を推進している。 ・学校行事に位置づけた生徒面談を活用して生徒の生徒理解を進め、意欲の高揚を図っている。 ・1学期段階においては、すべての年次で学習力指数が目標としている2.5以上となっている。 ・「基礎力診断テストのDゾーンを前年度に対して10%減少させる」目標については、3年次2年次においてほぼ達成している。	C	・タブレットの一層の活用を図るため、先進校視察を実施し、その視察を踏まえて、学力プロジェクトを核として学校全体の取組を明確にしていける。 ・生徒面談を重視し、生徒個々の長所の伸長に努める。
	(キャリア教育の充実) ・将来の社会生活や職業を見据えた科目選択と進路決定がなされている。 ・進路に係る教科外活動にも積極的に取り組んでいる。	・体験的学習や学校行事に意欲的に参加する生徒、あいさつのできる生徒が増加しつつある。 ・部活動への加入率が徐々にではあるが上昇し、大会等での結果にも成果が表れる傾向にある。	・多くの生徒が部活動に継続的に取り組み、学習との両立に努力し、高い満足と自信と誇りを持っている。	・「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題探究」等の科目をととして、各年次に応じて、生徒自らのキャリアデザインの意識を高揚させる。 ・進路に関する校外での活動にも積極的に取り組ませる。	・1年次では「卒業生を招いた講演会」、2年次では「サマーワーク」におけるインターンシップ(30名以上の生徒が参加)等を通じて進路意識の高揚に取り組んだ。 ・進路学習取り組み度については、2年次生で向上が見られるが、1年次生においては変化がない。	C	・コース選択や科目選択の機会をとらえて、生徒と面談し、個々の生徒について将来の進路を考えさせる。
	(自信と誇りの育成) ・生徒会活動や学校行事に積極的に参加している。 ・部活動が活発で、活動への意欲が高い。			・地域等のボランティア活動や体験的活動などの様々な場面で生徒に達成感を持たせる。 ・部活動が自分を成長させる大切な場であることを啓発し、加入を促進するとともに継続的に取り組ませる。	・生徒会執行部があいさつ運動を展開している。 ・浜村駅前の足湯清掃や青谷町の菖蒲綱祭りなどをはじめ、地域の方の協力のもと、ボランティア活動に参加している。 ・各部が活動に取り組んだ成果は見られているが、県総体後の3年生の引退による部員数の減少が各部の活動に影響を与えている。	C	・引き続き、ボランティア活動の情報を提供し生徒の活動を支援するとともに、活動後に達成感が感じられるよう生徒とのかかわりを持つ。 ・懸案となっている部活動の統廃合を検討する。
3. 地域との連携を推進する	(地域への情報発信) ・学校の特色や生徒の活動などが適宜発信され、保護者、地域の理解度が高い。 ・生徒の校外活動が積極的で、地域からの理解や信頼が厚い。	・PTAの協力のもと、PTA広報誌を定期的に発行するとともに、学校行事等はホームページで速やかに発信している。ただし部活動の情報発信が遅れがちであった。 ・地域の活動やボランティア活動に参加している。 ・社会人講師や地域の有識者に協力していただき講演などを開催している。 ・学校評議員会などを開催し、外部の方のお考えを聴いている。	・PTA広報誌の定期的発行に協力し、学校ホームページを時宜を逃さずに更新し、情報を発信する。 ・生徒が地域の活動やボランティア活動に積極的に参加し、地域からより大きな期待と信頼を得る。 ・学校行事やPTA諸活動に地域の社会人講師を招き、PTA総会をはじめとする行事への保護者の参加率が昨年度より向上する。 ・地域、保護者の方から学校運営へ一層の協力が得られ、学校評議員や地域の有識者と定期的な意見交換を行う。	・複数の教職員で、学校ホームページなどを運用し、時宜を逃さない情報発信ができるように取り組む。 ・地域の協力のもとでボランティアなど校外における体験的な活動を生徒に積極的にすすめる。	・ホームページ管理担当者を2人にする事で、昨年度より更新頻度が大幅に増加し、情報発信が迅速化した。 ・PTA会報編集委員会において、積極的に意見交換し、PTA会報を定期的発行にした。 ・足湯清掃、海岸清掃、地域行事等のボランティアを生徒に案内し、参加を促がし、地域の協力のもと実施した。	B	・ホームページを点検して更新が滞っている箇所を随時更新し、一層の情報発信に努める。 ・PTA会報の内容充実に取り組む。 ・地域との連携のもとボランティア活動の推進に継続して取り組む。
	(地域人材の活用) ・社会人講師等による多様な講演や研修が行われている。 ・学校評議員や地域の有識者との意見交換が定期的に行われている。			・青谷高校の現状や課題に即した講演会や研修を企画し、外部有識者の活用を一層促進する。 ・学校評議員や地域人材との一層の連携を進める。	・「いのちの講演会」において、全盲の方を講師に招へいし、その生き様を語っていたくことで生徒が自らの生き方を考える機会とした。 ・社会人による多様な内容の講演会や授業を実施し、生徒自らのあり方生き方を考える一助としている。	C	・実施しているさまざまな講演が、生徒にとってより有効になるように、実施時期などを次年度に向けて検討する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]